

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	グループホーム幸 1階みかん		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	令和3年3月29日	評価結果市町村受理日	令和3年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0172000952-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安心、安全にホーム生活を営むことができるように1人1人の気持ちを大切に、ケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小樽市郊外にある2階建て2ユニットのグループホームである。大きな庭があり、周辺の緑も多い。バス停が前にあり利便性も優れている。共用空間は明るく清潔で、居間兼食堂から庭を眺めることができる。トイレや浴室、洗面所などの設備も使いやすく整えられている。共用空間には絵画や写真などを飾り、和室コーナーもあって家庭的である。医療支援の面では管理者を含め2名が看護師の資格を持ち、利用者の健康管理に力を入れており、利用者ができるだけ個々のかかりつけ医を受診できるようにしている。受診記録も分かりやすく整備されている。ケアマネジメントの面では、基本情報シート、課題分析(アセスメント)概要を定期的に更新し、毎月のモニタリング、定期的な介護計画の作成が丁寧に行われている。日々の記録は計画目標に沿って記載されている。災害対策では、年4回の自主訓練と消防署指導による年2回の訓練を行い、災害に備えている。食事は、栄養バランスの整ったものを提供し、利用者と一緒におやつ作りを楽しんだり、個別の夕食についても支援している。感染症流行により外出が難しい中でも、小樽運河や植物園、朝里方面への紅葉見物に出かけ、日常の中でも周辺や庭での散歩や外気浴、美容院通いなどを行っている。緑に囲まれた環境のもと安心して生活できるグループホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階みかん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が朗らかに過ごせるよう、個々に何が必要かサービスかを考え、管理者と職員は相談し実践している。	法人の経営方針および事業所独自の理念の文言に地域との関わりを重視する内容を含めている。理念を玄関に掲示し、職員は理念の意義を理解して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で令和2年、3年と町内総会が議案集の信任、不信任で回答するようになったが、町内会長・民生委員さんにはホーム内の動向を折に触れて伝えている。	利用者が散歩する際に住民と挨拶を交わし、地域に事業所の土地の一部を排雪場所として提供している。感染症流行前は事業所の行事に住民が参加するなどの交流があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	意見できる場や出会いがあれば認知症ケアについての情報を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で対面した集会ではないが、市の要請により紙面(議案集)にてホーム内の動向を伝えている。	現在は2か月ごとの文書による開催となっている。年間行事、事故報告、感染症などを議題として取り上げ、地域包括支援センター、町内会役員等から意見を得ている。会議内容を記した議事録は家族に送付していない。	家族に連絡を取る際などに運営推進会議への意見も得られるよう、会議内容を記した議事録を家族に送付することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営指導に従い、必要な事は相談し、意見を聞いている。	運営推進会議で地域包括支援センターから情報提供や意見を得ている。運営推進会議の書類を地域包括支援センターに送付している。感染症に関して保健所から文書にて様々な指導を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月間隔で開催し、拘束しないケアに取り組んでいる。ベッドより転倒予防の為、ベッドサイドにマットを使用している例でも、定期的に拘束解除を検討している。	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルを用意し定期的に勉強会を行っている。年4回の委員会も開催している。玄関は職員がリモコンで開錠するドアとなっている。利用者の外出希望があれば付き添うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常介護業務の中、乱暴な言動、介護を見過ごすことのないよう注意している。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階みかん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修やネット情報で学び、利用者が活用できるか、管理者や職員で話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者や家族等に十分な説明を行い、理解頂いてから入居して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等から意見や要望があれば運営に反映できるよう傾聴している。	家族には受診内容を説明する際など意見を聞いており、得られた意見を申し送りで共有している。毎月、利用者の様子を載せた「幸便り」を家族に送付している。家族の要望に沿って以前よりも発行頻度を増やした。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者及び管理者は申し送り時に意見交換し、協議内容を運営に反映している。	日々の申し送りや毎月の内部研修の際に職員が情報や意見を交換している。管理者は職員と随時、個別に話をする機会を設けている。職員は行事企画やお便り作成などの業務を分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	より良い職場になるよう職員待遇に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行い、働きながらのトレーニングを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や勉強会に参加し、管理者や職員が同業者と交流している。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階みかん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用初期は不安な点も多いので、話しかけを多くして、不安の解消や要望等を傾聴するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学、契約の説明時など、入居前から家族の思いを聞く事により、説明、相談にのり、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、紹介者からの情報をもとに今必要なサービスを介護計画に盛り込めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	明るく挨拶をし、家事やレクリエーションを通じて会話をもち、暮らしを共にする者同士支え合っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ利用者のホームでの様子を伝えている。本人と家族との絆を大切にしながら本人が意向の表出が困難な場合は、家族とともに本人本位で今後を考えていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策で面会者は玄関で会って頂き、遠方の方へは手紙や電話で連絡できるよう支援している。	利用者に友人が訪ねて来るケースがあり、利用者に知人から電話が来た際は本人に確認の上取り次いでいる。2名の利用者が馴染みの美容室に通っている。外出行事でも馴染みの風景を見に行くようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ予防の為、場所は分散しているが、体操、レクリエーション、食事、オヤツ時は利用者同士が関わり合える場所を提供している。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階みかん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者や家族にも必要があれば相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から利用者の思い、希望を傾聴し、意向の把握に努めている。	ほとんどの利用者は、職員の問いかけに応じて思いや意向を答えている。基本情報シートで生活歴を把握し、課題分析(アセスメント)シートに興味や嗜好の情報も載せている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の資料や本人、家族からの情報、紹介のあった病院などからの情報を集め、これまでの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々懸念を維持し、朗らかに暮らせるよう関わりを持ち、記録に残し、心身状態などの現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の送り、介護計画の見直しなど、本人の持つ課題とケアについてスタッフ間で話し合い、家族へは面会時等を利用して意見確認し、計画作成の参考としている。	利用者の状況に応じて介護計画を3~6か月で更新している。毎月モニタリングを行い、結果を計画更新時の見直しに活かしている。日々の記録は計画目標を参照しながら対応する番号を記載して利用者の様子や支援内容を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の個別の記録を残し、スタッフ間での意見交換を行い、ケアの実践と見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の差し入れをオヤツとして本人の希望通りに出す。なくなった家族の命日のお参りに参加する等可能な限りは利用者のニーズ対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日用品を地域の業者へ依頼したり、近くのケーキ店を利用したり、運河公園を散歩したりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診している病院を聞き、継続できるよう支援している。新たに受診科目が増した場合は、本人、家族、ホーム側と相談し、適切な医療支援となる様配慮している。	利用者のうち6名は月1回の往診を受けている。他の利用者は個々のかかりつけ医に家族または事業所が同行し通院している。受診記録を個人ごとに作成している。管理者含め2名が看護師であり、健康管理をきめ細かく行っている。	

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階みかん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、体調、精神面の変化があれば、すぐに報告、相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、認知症であり、見守りの援助が必要であること、示達性が少なく自分の症状を自ら十分に訴えることが出来ない事、複数の病名や症状を持っていること等を添書と口頭で伝えていく		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約説明時より重度化や終末期への対応について、本人、家族等関係者と話し合いをおこなっている。	利用開始時に医療連携に関する指針、看取り指針を説明し、同意書を取り交わしている。過去に重度化した場合は家族や医師と相談の上、家族の希望で入院となった。重度化した場合の看取りまたは入院について、家族と早い段階から話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応として、看護師への連絡、消防への連絡などの手順を確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内での避難訓練を3ヶ月に1回消防署立ち合いの訓練を年2回行い、非常通報装置で地域の方にも連絡がいくようにしている。	年4回の自主避難訓練と、年2回の消防署指導の下での避難訓練を行い、感染症流行前は地域住民の参加も得ていた。災害時に必要な備蓄品を用意している。緊急時の救命措置は、看護師の資格を持つ2名の職員が行うこととしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを尊重し、やさしい言葉遣いを行うよう指導している。	利用者は「さん」付けで呼びかけている。不適切な声かけがあればその都度注意している。個人記録は事務所で記入し、申し送りは小声で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で本人の意向を聞き、その希望に沿えるように接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など所作が遅くても本人のペースを大切に見守り、介助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問サービスをしてくれる地元の理容師が隔月で散髪し、日曜日はヘルパーが整容介助を行っている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階みかん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が行っているが、下膳の一部は利用者が行っている。調理準備として、野菜の皮むき、もやしひげ根取りなどの作業を共に行っている。	業者の管理栄養士が作成した献立で、栄養バランスの取れた食事を提供している。利用者と一緒にホットプレートで焼きそばやホットケーキを作ったり、個別支援で外食に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材、メニュー作成を業者に発注し、栄養バランスやカロリーに配慮した職を提供している。食事量・水分量を記録し、利用者の生活習慣に配慮した工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で口腔ケアを行える人へは声掛け、見守り。自分で着ない人には誘導解除を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗のある方にはそのパターンを調べ、時間でトイレ誘導を行っている。室内での便器移行が安全にスムーズにいくよう、必要時センサーマット設置し、利用者の行動を見守り支援している。	自分でトイレに行った時も職員が排泄状況を確認し、全員の排泄記録をつけている。可能な限りおむつの使用を控え、トイレやポータブルトイレでの排泄を支援している。ナースコールで排泄意向を知らせる利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量と排便記録を残し、下剤調節を行っている。排便を促がす体操、マッサージを毎日行い、オヤツ時にはヨーグルトを出している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴スケジュール内で本人の希望に合わせ、曜日、時間を変更し、入浴して頂いている。	ユニットごとに入浴時間帯は異なるが、全員一人週2回の入浴を支援している。入浴剤を使用し、好みの湯加減や同性介助などの希望に沿って、職員と会話を楽しみながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況により、居室で休息して頂き、安眠できない時は傾聴し、原因の解決を行う努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬局からの薬の説明をファイルし、作用、副作用が把握できるようにしている。与薬前に複数人で確認し、症状の変化には早く気付くよう観察を続けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常会話を通じて本人のやりたい事などを伺っている。一緒に折り紙箱作りをしたり、オヤツ作り、デザート煮りんご作りに参加してもらっている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階みかん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	5月～10月の間、天気が良いければ毎日裏庭を散歩できるよう支援している。家族等の支援で外出(盆参り等)される事もある。	普段は事業所周辺や庭を散歩している。車椅子の利用者も庭先で外気浴を楽しんでいる。小樽運河や手宮緑化植物園、長橋なえぼ公園に外出したり、秋には朝里方面で紅葉を楽しむなど、感染症流行で外出が難しい中でも積極的に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、本人の能力に応じて買物、レクの時などに自力で支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話、手紙で連絡できるよう常に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に温湿度計を置き、時間ごとにチェックを行い適切な温湿度が維持できるよう工夫している。共用空間の掃除は毎日ヘルパーが行い、季節感を取り入れた室内レクをデイルームで行っている。	居間兼食堂は庭に面した明るく開放感のある造りで、廊下に個別の収納スペースも設けられている。1階には和室コーナーもあり、床の間には季節感のあるクリスマスツリーが飾られている。廊下や食堂の壁には、絵画や利用者の塗り絵作品、日めくりなどがあり家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ予防の為、マスク着用し、距離を置いて会話、交流がもてるよう工夫している。一人になりたい時は居室を利用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた布団、家具などを持参してもらい、本人と家族が居心地よく過ごせる工夫をしている。	各居室にベッドとタンスが備え付けられている。入り口の表札に写真を掲示したり名前を書いて、自分の部屋が分かりやすいようになっている。絵画や日めくり、テレビなど各利用者が好きな物を持ち込んで落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの造りになっており、一本の廊下に居室及びトイレが並んでおり、事務所より見通しのきく配置となっている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	グループホーム幸 2階りんご		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	令和3年3月21日	評価結果市町村受理日	令和3年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安心、安全にホーム生活を営むことができるように1人1人の気持ちを大切に、ケアを行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoNoCd=0172000952-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年11月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階りんご)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ感染にならないよう、三密を重要課題として密接・密集・密閉を共有理念としている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員との交流、排雪場所の提供、朝の挨拶などを日常的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区、町会の方、民生委員の方々と独居生活をされている高齢者の方に認知症になる傾向を話しあっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において特に問題になることは事故のことや日常生活のヒヤリハットをいかに防ぐか問題視され、改善方法を話しあっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム運営に対し、指導を受けない事は積極的に指導を受けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束をしない方向性で取り組んでいる。ベッドからの転倒は床にマットを敷いたり、センサーを設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より、利用者との関わりを大切に、特に言葉遣いに注意をしている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階りんご)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援においては保健所、成年後見制度においては包括支援センターの中にある後見制度を利用している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する時、本人家族に対し契約内容および運営規程等の説明をしている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、運営等に疑問点があれば、意見を聞いている。職員においては業務中に意見を聞いている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者が日常生活を営む上で職員の意見や提案が入居者に反映されるものであれば、積極的に取り入れている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務において、個々の職員が入居者のために一生懸命努力している姿が実績と感じられる職場環境づくりに努力している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在コロナの感染防止にて外部研修は控えているが、入居者個々に対し、ヒビの問題があれば、朝の送り時に解決方法を話しあっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近ではコロナの影響で勉強会および訪問を差し控えているが必要時は電話で話しあっている。			

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階りんご)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が入居する時、不安に対する考え方が違うが、家族を通じて聞いたり、入居時しばらく関わりを多く持つようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、本人に対し、思っている事があれば、時間に関係なく電話をしてくださいと話しかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者家族が一番問題にすることは受診の付添をしてくれるのかという意見が多いが家族ができる人にはお願いしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の人達にとって、一番大切なことは、ホームの生活が安全で安心して生活できるか、また孤独にならないかとの不安が強いため、機会あることに声をかけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々本人が安心してホームで死活出来るように家族との絆を大切にしている。面会は無理であっても、電話で話をするようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前交流のあった友人や知人等から電話や便りがあった場合、近況を知らせてはどうかと声をかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルは一方的な考え方から起こるバイが多いので、協力をお願いすることを話しあっている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階りんご)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される時、不安が有ったり聞きたい事があればいつでも電話をしてくださいと話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がホームの中で生活している上で大切にしている事、希望している事があれば、会話の中から把握するよう努め、家族との協力を得る。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームでの生活は単調になる傾向がある。以前の生活を聞き、生活環境の改善を話さう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時々、本人に今の生活について話し合い、少しでも一日が有意義に過ごせるように努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活は介護計画に基づいて実行しなければならないと思っており、課題とケアはその都度変わっていくと思っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の様子は職員間の共有、家族の協力によって気付く場合が多いため、朝の申送りは実践への基礎となる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しい環境の中で本人が何を望んでいるか、日頃より会話の中から把握し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人1人が受診している専門医、一か月に一度の往診、美容室、衣料、スーパーの買い物などを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族、ホームで話しあい、かかりつけ医院または病院にホーム側が付添ったり家族の協力を得ている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階りんご)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は本人とのケアの中で身体的・精神的に問題と思われることはホームの看護師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホームでの看護添書・介護添書を提出している。入院中においてもケースワーカーなどと情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、本人家族と看取りにおいて意見を聞き共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備え、対応方法を話し合い、初期対応の訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日、朝の申送り時火災が発生したら、指示ボタンを押して消化器を使用するよう伝達している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者との会話、関わりの中で言葉遣いには十分注意し、対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より本人の希望等があれば、十分聞いてあげ、実行できるものがあれば対応する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃より本人の気持ちを大切に接する。ペースは個々に応じて対応する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り、本人が希望する服装で日々過ごして頂く。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階りんご)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	管理者が入居者と同じ食事を食べることにより、好みや味が理解し合える。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食の量、一日の水分量を決め、業者の管理栄養士が一日1600kcalをキープしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で歯磨きが出来ない方は毎食後口腔ケアを介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを導き、誘導を試みている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者においては便秘への滞納が難しいので、三日間を目途に下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日は決めているが、本人が希望すれば、いつでも入浴できるよう対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や球速は特に決まった時間を決めてはいない。いつでも安心して眠れることができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の入居者には何の薬が処方されているかを把握し、症状の変化に速やかに対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の時、オヤツの時、ラジオ体操・廊下歩行の時、何かと話しかけ、気分転換をできるように努めている。		

グループホーム幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階りんご)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ感染対策で受診以外外出などは自粛してもらっているため、電話にて家族との交流を深めている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い金は管理者が管理しているが、貯金の残金及び小遣い帳を診たり、焦点が衣類をホームに持参してもらい購入している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族の声を聞いたり、家族の依頼があれば取り次いでいる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの庭は広く、居室から食堂から見る庭は季節感を強く感じられ、居心地の良い空間になっている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間における居場所を求める方は1人食堂の椅子に座り、窓より外を見ておられる時が多い。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室における物の配置は本人と家族との相談にて行っている。時には歩行困難な方にはホームより強力をしてもらっている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室における生活は、本人が安全であれば、自由にふるまって頂いている。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム 幸

作成日：令和 3年 12月 6日

市町村受理日：令和 3年 12月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	家族に連絡を取る際などに運営推進会議への意見を得られるよう、会議内容を記した議事録を家族に送付する。	運営推進会議の議事録を家族に送付する。	日々の生活の中で大切な事は健康・安全・安心・その他において生活できるように援助しておりますが、これらのことで問題点が話題になれば、議事録として連絡したいと思います。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。